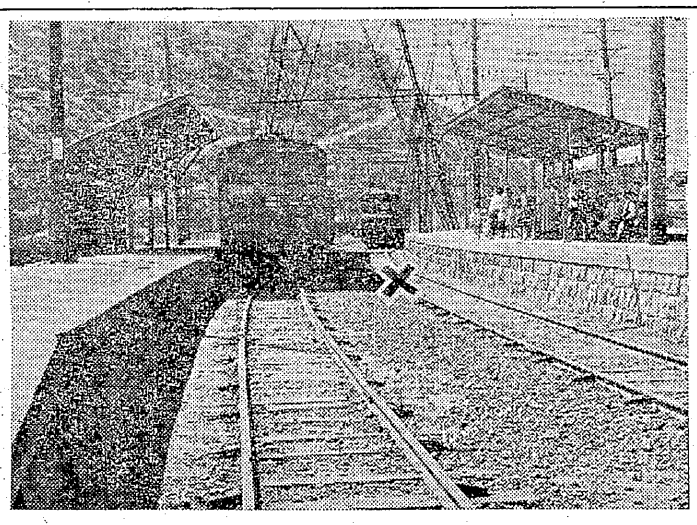
電車にもまれ災害
順子ちゃんの死亡
要望される親の監視

去る十三日午後三時十五分ごろ、通勤電車西原駅ホーム（荒尾市四山のふもと）の西側踏切の下り線で下川順子ちゃん（七才、西原アパート）が、ホーム西側より下り列車の前に歩みこんだため、電車にもまれ、重傷後死亡するという災禍が起きた。

現場での事故時刻はちょうど上下線がすれ合うような時間のため、上り電車が踏切を通過してしまつたので踏切を渡ろうとしたとき、下り電車が進行してきているのを全然知らず歩み入つたため、下り列車の前え突然歩み入つた状態となり、電車制動もむなしく電車にもまれる事故となつたものである。



（写真）×印順子ちゃん被災の現場

運輸省の港務所では直ちに対策などを協議しているが、現場はとくに県境附近で人家も立て混み、以前から注意を喚起されていたもの。

線路で遊ぶ子供

現場の踏切には遮断機がないところからか、普通のときでも、よく子供たちが列車の通らないときは線路内で遊んでいることがたびたび見受けられているほどであつた。大人と違つて注意力の欠ける子供ではあるし、とくに遊びに夢中になつているときなど非常に危ないので、線路内で子供は遊ばないようにと呼びかけも行われたことともある。また、子供は絶対に線路内に立入らせないようにとの親の監視や注意が何をさておいても大切なところから、この災害を機にして、いま一そう父兄の注意がのぞまれている。

西原附近にかぎらず、さいきんまた、線路内立入などが多くなつてきていることは保安部などでもナヤミの種となつているもので、いくら声をカラして叫んでも、すぐに日数が経つとまたもと通りになるというのが過去の例であつた。とくに炭鉱列車は国鉄の列車とちがつて列車速度がノロイところからナメてかかる子供たちもいるほどであり、これは大変危険なことである。

大切な親の認識

ともかく、子供たちを線路内に立入らせないことが先決問題でありこの種災害をなくすることでもある。子供たちには、いま一度口を酸っぱくして〃絶対に線路に立入つたり、線路附近で遊んではいけませんよ〃と注意を繰返して云いきかせよう。これが可愛い子供の生命を救うことにもなり、順子ちゃんの霊を慰さめることにもなると思う。

社会労働委員長に
阿具根参議が就任

参院社会党では、十五日午前の議員総会において新常任委員長に社会労働＝阿具根登、商工＝近藤信一、内閣＝近藤進、文教＝秋山長造、運輸＝天田勝正、徴罰＝海野三郎の各六氏を決定した。

これらの各委員長は十八日の参院本会議において正式に決定された十八日、社会労働委員長に就任した阿具根参議は、この喜びと覚悟の程を次のように語つた。

喜びを組合員と

最近における政府の労働行政は、労働三法の改悪や次官通達、更には佐賀教組、公労協に対する不当処分等々、露骨な強圧政策を強行しつつあるが、この重要な時期に社会労働委員長に推挙を受けましたことは、日頃組合員の皆様の御支援と御鞭撻の賜と深く感謝しております。

微力ではありますが、これから益益重大化せんとする労働問題、社会保障問題にに体当りして誠心誠意、頑張り続けてまいりたいと思つております

阿具根参議

希望 採訪

延命公園に科学の殿堂
張切る博覧会事務局

今年は博覧会ブームだ、という人さえいるほどなる。ところが大牟田でもこの秋九月二十一日から十一月九日にかけて延命公園一帯で〃産業科学〃と銘打つ大博覧会が開かれることになり、いま博覧会事務局では最後の締めくくりに向う鉢巻だ。記者はこのあわただしい事務局へと一日探訪をこころみた。

すでに街の目ぼしいところは博覧会のポスターがこれみよがしにはられており、夜ともなれば市庁舎正面には赤い灯青い灯のネオンが通行人に博覧会を呼びかけ、前奏は高らかに鳴りひびいている。

玄関より入つて左のつき当りが事務局である。入口には模型のアドバルンが掲げてあり、さすがに何となく生気にあふれている。

壁には科学館、子供館、福岡県館など完成図が額に入れてズラリとならべられており、お膳立はまつたくそろつたという感じだ。

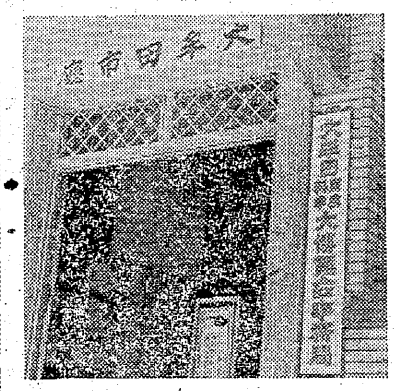
「とにかく、いままでがテンテコマイでしたよ。もう最後の整備も終えたし、いよいよこれからが最後の仕上げです」と、事務局ではいつている。

とにかく見てもらわないことには、話にならないとあつてみれば、いきおい宣伝には力が入る。最少の宣伝で最大の効果をねらつてやっているそうで、中心は何といつて福岡、熊本両県で、毎日宣伝車「しらぬひ」号がかけずり廻っている。

前売券も四十万枚を発行しており、婦人会が一手に引受けて目下売さばいているとのこと。

こんどの博覧会の中心になるのは石炭科学館だ。すでに会社の方とも基本線だけは一致をみており、よそに恥かしくないだけのものは完成させたいということになつているという。「予想通りの内容で展示ができればおそらく、他博覧会ではみられないものができます」と、なかなか自信満々だ。会館も鉄筋三階建五百坪で、この点だけでも過去に北海道で一つみられただけでさいきんの博覧会とはくらべものになりませんという張りきり方である。

ところで、ただの博覧会とちがつて石炭博という特性だけに、地元三井はもちろん、三井以外の鉱業所に呼びかけて見てもらうという計画であり、また附近の農村や学生の団体へも広く呼びかけを行つているというありさまである。



いよいよ開催の期日も目前にせまつてくるとともに、各部とも最後の仕上げに大車輪となつてくる。現在局長、総務、宣伝、出品、施設、輸送、行事、警備の各部にわけられ、例えば宣伝部は教育委員会、施設は建築課、輸送は水道課などそれぞれの担当部がきまつて特性をフルに動かして活動しているという状態である。総経費三億円、会場面積三万坪という大博覧会がつつがなく終ることを念じて事務局をあとにした。

なお入場料は大人百五十円、中人百円、小人八十円ということもつけくわえておく。

（解説）
かけ引き国会運営
〃静かな第二六国会〃を顧みる

○…第二十六国会は幕切れになつて中小企業団体法案が難航、会期を一日延長したうえついに継続審議にもち込んで十九日閉会した。昨年十二月二十四日石橋堪山氏を首班に指名して以来、石橋から岸への〃静かな政変〃をはさんで百五十一日目だつた。こんどの国会は「予算国会」といわれるくらいに予算以外には重要な法案がほとんどなかつた。「人格なき社団」という名目で歌ごえにまで課税する法人税法改正案、上にあつく下にうすい給与体系の改悪をおりこんだ給与法改正案、国鉄運賃の一割三分値上げをきめた国鉄運賃法改正案等々、これら野党のはげしい反対を押しきつて成立した法案すべて予算実施にともない立法化が必要となつて提出されたものであつた。

○…予算以外の重要法案は、ほとんど軒なみに継続審議となつた。紀元節を復活する国民祝日法改正案は衆院は通過したが参院で審議未了（廃案）となつたし、最高裁判事の定員をへらす裁判所法改正案は、自民・社会両党が逆に増員案を出したので審議はストップして継続審議となつてしまつた。もともと自民党は与・野党が激突する原因となるような法案はすべてひつこめてしまつた。例えば、鉄鋼需給安定法案、秘密保護法案、教科書法案がそれであるが、こうして自民党内閣は、重点を予算において国会にのぞんだ。

○…一方、社会党はマス・コミがはやしたてた「二大政党による国会運営」のワクに片足ふみ込みやや闘う気勢をそがれた形だつた。予算委員会などで紛糾がおこるとすぐ両党会談がひらかれ、事態を収拾した。公労協の第三波も党首会談で手が打たれたかつこうになつた。

○…しかし予算が成立したあとの国会は、春季闘争の労働者攻勢を背景として与・野党がはげしく対立する場となつた。社会党はようやく闘う気勢を示し、院外の攻勢に呼応し、最低賃金法案を提出した。「防衛用の核兵器は違憲ではない」という岸発言も鋭く追及された。だが社会党が国会前半につつこんだ片足は、完全に抜き出せたとはいえないようだ。閉会予定日の十八日、議員の審査雑費として毎月二万五千円を支給する法案が国民の目をかすめてスルスルと成立させてしまつたことは自・社のなれ合いといわれてもやむをえないことであろう。

○…マス・コミはこの国会を「静かな国会」であり「国会正常化」への道がひらかれたと賞讃しているが、実は国政の大事なところが国民の目のとどかぬ奥深いところへかくれつつあるということだろう。表面的な〃安定〃にとらわれることは危険なことである。

（機関紙通信より）

松川事件を語る
廿九日　廣津和郎氏来牟

「松川裁判」の著者、広津和郎氏が二十九日午前十一時四十九分着の「キリシマ」で来牟するが五月一日から五日まで、松川事件被告浜崎二雄氏が真相を訴えるために三鉱、自労、国鉄、などの組合をまわつたが、広津氏はその後をうけての来牟である。

大牟田における広津氏の講演は午後五時から市民会館で行う。なおこの日は産業事件主任弁護士の潘原敬孝氏も「消えた警察官」を講演する。

広津和郎氏略歴

小説家、文芸評論家。明治二十四年小説家広津柳浪の次男として東京に生れた。大正二年早大卒。中学時代から小説を書き、大学に入学した頃からチエホフのほん訳などを始めていたが、大正元年九月、相馬泰蔵、舟木重雄、光田ぼく、藤西善蔵、谷崎精二らと同人雑誌「奇せき」を創刊した。卒業後毎夕新聞社に約半年つとめた後ほん訳に専心。大正六年、芥原龍山が主宰する「洪水以後」などに文芸評論を発表して文壇に注目され、まず文芸評論家として登場。「怒れるトルストイ」「志賀直哉論」などの秀作をかいてその地盤を固めた。

一方小説に於ても大正六年十月、「中央公論」に発表した「神経病時代」によりその地位を確立。以後「師崎行」「やもり」「波の上」「死児を抱いて」と自己の周辺に取材し、性格破産的運命を扱つた一系列の作品を相ついで発表作家として堅実な歩みを進めて行つた。

しかし、大正九年、結婚（大正四年）当初から始終クライかげをただよわせていた家庭生活を解消すると共に筆もおとろえ三年ばかり空白の時を送つた。大正十三年生活に追いつめられて筆をとり、さらに同十五年ふたたび家庭をもつた。昭和三年父柳浪を失くした文壇に登場以来、中途半端な性格と生活をもつ知識と、苦悩を誠実に追究しつづけて来たが、この傾向はこの頃から一層つよまり、社会的関心が彼の思想の大きな領域を占めるようになつた。左翼陣営からは同伴者作家とみなされた。

「昭和のインテリ作家」「風雨強かるべし」と書きつづけ、理想に対する憤懣を心のオクに保ちながら現実に足をふまえてきた。いわゆるリベラリストとして戦時中から戦後と自己の文学を生きつづけている。

戦後、風俗小説的な佳作をかくと共に、昭和二十六年の中村光夫との「異邦人」論争や、二十八年から現在まで松川事件に対する積極的な発言など誠実な活躍を示している。

演ずる。

広津和郎氏略歴

小説家、文芸評論家。明治二十四年小説家広津柳浪の次男として東京に生れた。大正二年早大卒。中学時代から小説を書き、大学に入学した頃からチエホフのほん訳などを始めていたが、大正元年九月、相馬泰蔵、舟木重雄、光田ぼく、藤西善蔵、谷崎精二らと同人雑誌「奇せき」を創刊した。卒業

弓道日本選手権大会に出場して
三川稲葉東生

五月二日から京都で開催された日本弓道選手権大会に出場するために、大牟田を出発したのはメーデーの朝であつた。年一回の労働者の祭典に参加しない地域分会長を遠く分会の同志諸君に心でわびながら乗車したが、車窓より途中各地で展開しているメーデーの赤旗の波を見て、嬉しく心強く感じた。

出発前不調であつたのに六位に進出できたのは予想外であつたし幸運であつたと思う。

最後の土壇場にきて必要なことはファイトも勿論であるが、とくに沈着、冷静であろう。決勝戦に進出した九州勢からは私一人が残つた。みんなからお前は福岡一県を代表するだけでなく、オール九州の代表になつたんだから、そのつもりで頑張れと激励された。

日本中の先生方が審判席で声をひそめ、全国の選士は手に汗を握つて注目している。それでも全精神をこめて

ーエイエイツまよ！ーと射はなした結果が六位であつた。あんな苦しいことはなかつた。しかし審査の先生方からは心技共に優秀であつたと称讃されたことがただ一つの成果であつたといえよう。

切磋くまつた時、こんな気持となる事はあらゆる場合についても同様であるが、私は企闘一一三日の永い闘争の最終場を想起した。

私はかつて「みいけ」紙上で企画されていた「ホープざん」欄に紹介されたことがあるが。その中に最近ファイトがないと書かれてあつた。そう指摘されればたしかに往年のような猛突性はなくなつた。しかし私は自分があえてハシカ犬のようにかみつくのがファイトとは考えないし、そんな気持を持ちたいとは考えない。積極的な行動、正しい判断と変らざる信念の筋、これさえあれば十分と考えるがどんなものだろうか。

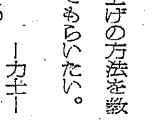
今後はこうした精神面の修養を第一として来年に備えるとともに労働運動にも活用して行きたい。

日本選手権大会に出場して感じたままを述べて見た。

抗議船派遣中止
高知県本部が声明

水爆実験抗議船派遣高知県本部は十八日午前零時半抗議船派遣を中止するとつぎの声明を発表した。

◎声明＝抗議船派遣高知県本部は派遣準備を完了した。しかし十五日行われた水爆実験によつて汚染を予想される海域に船をだすことは従来主張しつづけてきた人命尊重の立場から、派遣基地とも連絡し今日まで計画した本県の抗議船についてはとりあえず現段階では中止することを決意した。さらに大規模な核爆発にそなえての抗議行動（抗議船をふくむ）については、国民的総りを結集した大国民運動のなかでおこなうよう本県としても準備すると同時に日本原水協ならびに全国民にたいしても要請する。



「月給制」

賃上げの方法を教えてもらいたい。

—カエー

労働組合どの（寛　太）